

## 収量確保のため 生育に合わせた施肥と排水対策を！

### 1. 生育概況

1月中旬以降、降雨・降雪は少なく気温も平年より高く推移しています。麦の生育は概ね平年より進んでいるものの、ほ場によってはばらつきがあります。

### 2. 収量確保に向けた管理(大麦・小麦共通)

#### (1) 追肥 ～生育に合わせた追肥をしましょう！～

分けつ不足(莖数 400 本/㎡以下)の所では、2月下旬に窒素成分で 1.5～2kg/10a 程度追加で施用しましょう。

莖数 400 本/㎡のめやす  
(条間 25cm の場合 1m に 100 本の莖数です)

小麦



大麦



大麦の黄化(品種特性)



- ・小麦：生育旺盛なほ場(莖数 900 本/㎡以上)でも、葉色が落ちてきた所では、2月下旬に窒素成分で 1～2kg/10a 程度追加で施用しましょう。
- ・大麦：葉の黄化が見られますがこれは品種特性であり、追肥の必要はありません。

#### (2) 排水対策 ～溝に水がたまっていますか？～

この時期の排水不良は根の伸長を妨げ、収量・品質の低下につながります。滞水している場合は溝さらえ等を行い、速やかに排水しましょう。

排水路がふさがっており、溝さらえが必要

